

京都・高台寺 御中

京都・高台寺
「夢あかり ライトスケープ」
ポスター展開の提案書

(社) 京都デザイン協会

京都・高台寺
夢あかり ライトスケープ

時は十六夜の候

数々の人間ドラマをじっと眺め続けてきた月が上空にあり

東山山麓「高台寺」には夜毎ハイテク機器により
ライトアップされた世界が広がっている。

歴史と由緒を誇る銘山が今「ライトスケープ」に
よって新たなる歴史を刻もうとしている。

高台寺は白天からナイトまで、いつでも見たい。
ポスターによる告知は、そのイベントの楽しさが伝わってこない。
集客の意味をなさないと考えます。毎回、高台寺のライトアップが
待たれるためにも、他の寺院と一緒に侏羅アート表現をコピー
表現が必要と考えます。特に、若者たちに興味と関心を抱かせるた
めに新しい手法による告知がイベントの成功につながるとい
う。

京都・高台寺 夢あかり ライトスケープ

光のもてなし。

昨年の秋を皮切りに、今春と恒例化してきた高台寺のライトアップ。毎回を重ねるために好評を得ているのは、やはり昼間では見られない夜の幽玄美の演出。あくまでも、禅宗寺院にふさわしい照明効果によって、幽玄さをどれだけ引き出せるかにあるといえます。闇夜に浮かぶ月、星、寺院、庭、紅葉、松などすべてがひときわ魅力的に映える光のもてなし空間、それが高台寺のライトアップです。

高台寺独自のイメージづけを重視したい。

ポスターによる告知は、そのイベントの楽しさが伝わってこないと集客の意味をなさないと考えます。毎回、高台寺のライトアップが待たれるためにも、他の寺院と一味違ったビジュアル表現とコピー表現が必要と考えます。特に、若者たちに興味と関心を抱かせるために新しい手法による告知がイベントの成功につながるといえましょう。

ポスター【UFO編】

●企画意図

なぜ、UFOなのか。いきなりポスターのビジュアルに登場したUFOは、現代版「新竹取物語」を感じさせる光のシンボルです。豊臣秀吉と北政所をまつる高台寺の長い歴史と深い文化を新しいカタチで象徴して、今回のライツスケープを効果的にPRしていきたいと考えます。

●コピー表現

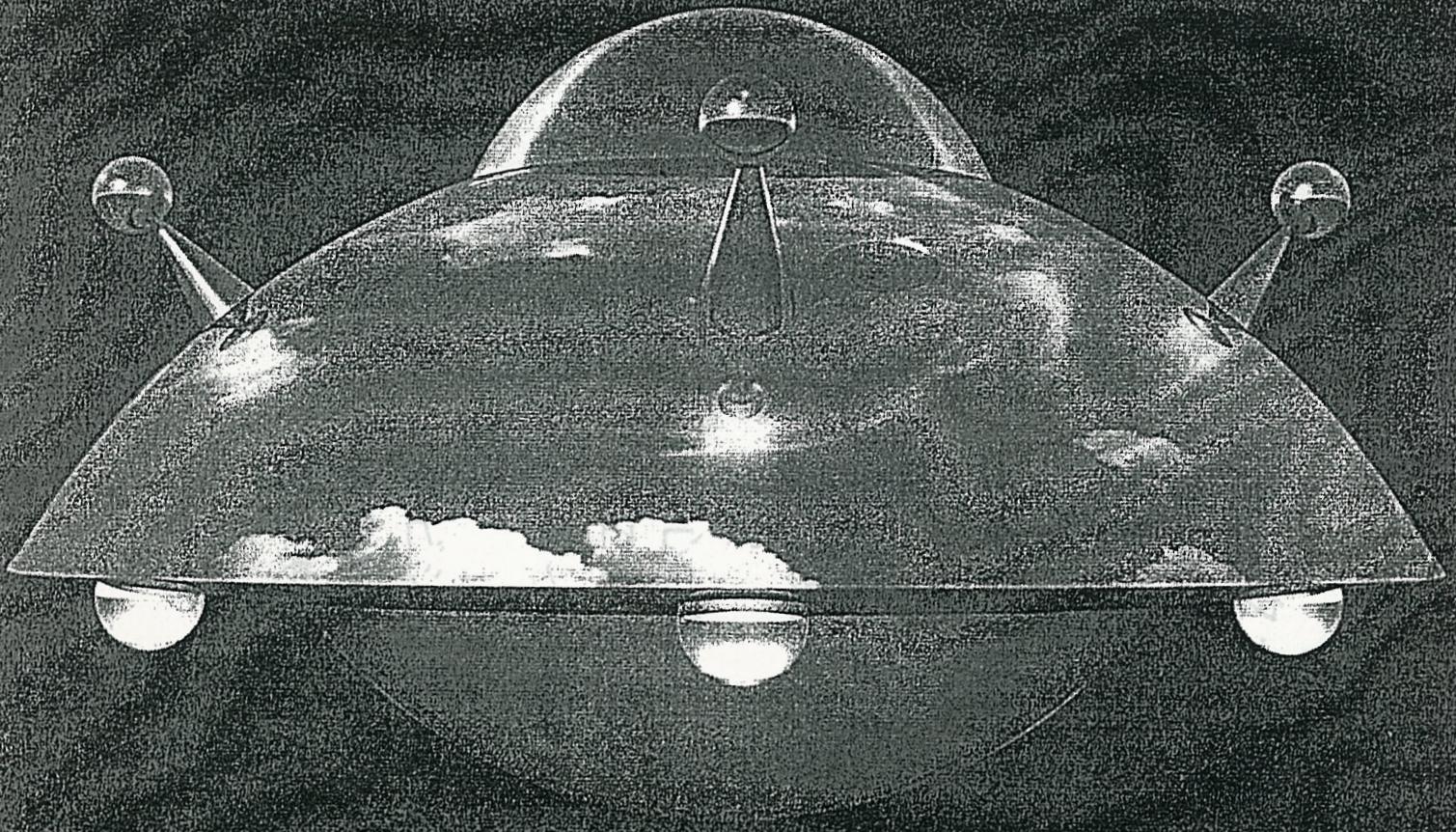
聞こえますか、光のささやき。

別案

- ・ね、ねえ。もっと夢を見ましょうよ。
- ・夢のある大人でいたい。
- ・ひとが、まんなか。

●ビジュアル表現

禅宗寺院にふさわしくないと思われがちなUFOだけに、かなり目を引くインパクトはあります。さらにシンプルなUFOにさわやかな青空を写し込み、そこから発する光が白砂の庭をやわらかく照らすなかに高台寺を象徴する蒔絵をさりげなく表現します。



光のさざやき、京都
夢あかり
高台寺
ライツスケープ

LightScape

10月23日(日)~11月23日(水)
午後5時~9時

於

高台寺

京都市東山高台寺町下ノ内町15-26 電話

TEL 075-561-9366

入山料(休業日) / 前売券 900円・当日券 1000円

交通案内

JR近鉄 京都駅
京阪電車 四条駅
阪急電車 河原町駅より
市バス東山安井停下車、東へ徒歩約5分

主催

高台寺夢あかり実行委員会

協賛

(財)平安建都1200年記念協会

JR西日本

JR東海

街の色研究会

歴史街道推進協議会

(社)京都デザイン協会

ポスター【うず巻き編】

●企画意図

夢見るような広大な夜空、果てしなく広がる宇宙を感じさせることにより、今回のライトスケープの魅力を訴求します。月夜のうず巻きは、高台寺の永い歴史を、まわりに並ぶ円球は月を表わし、十六夜を意味しています。

●コピー表現

夢を見るために、生まれてきたんだ。

別案

- ・心の翼は、元気ですか。
- ・こころを満たすもの。
- ・もっと人間らしく。

●ビジュアル表現

月夜のうず巻きは、高台寺の永い歴史を表わしています。まわりに並ぶ円球は、月を表わし、16個並べることで十六夜を意味しています。

夢を見るために、生まれてきたんだ。夢あかり

安土桃山時代の文部省官舎の宝庫であり、
井筒油製の数々を伝える京都東山高台寺
名古小堀遠州が構築した壮大な庭園を、
現代のハイテクパワーによってライトアップ。



高台寺 ライトスケープ

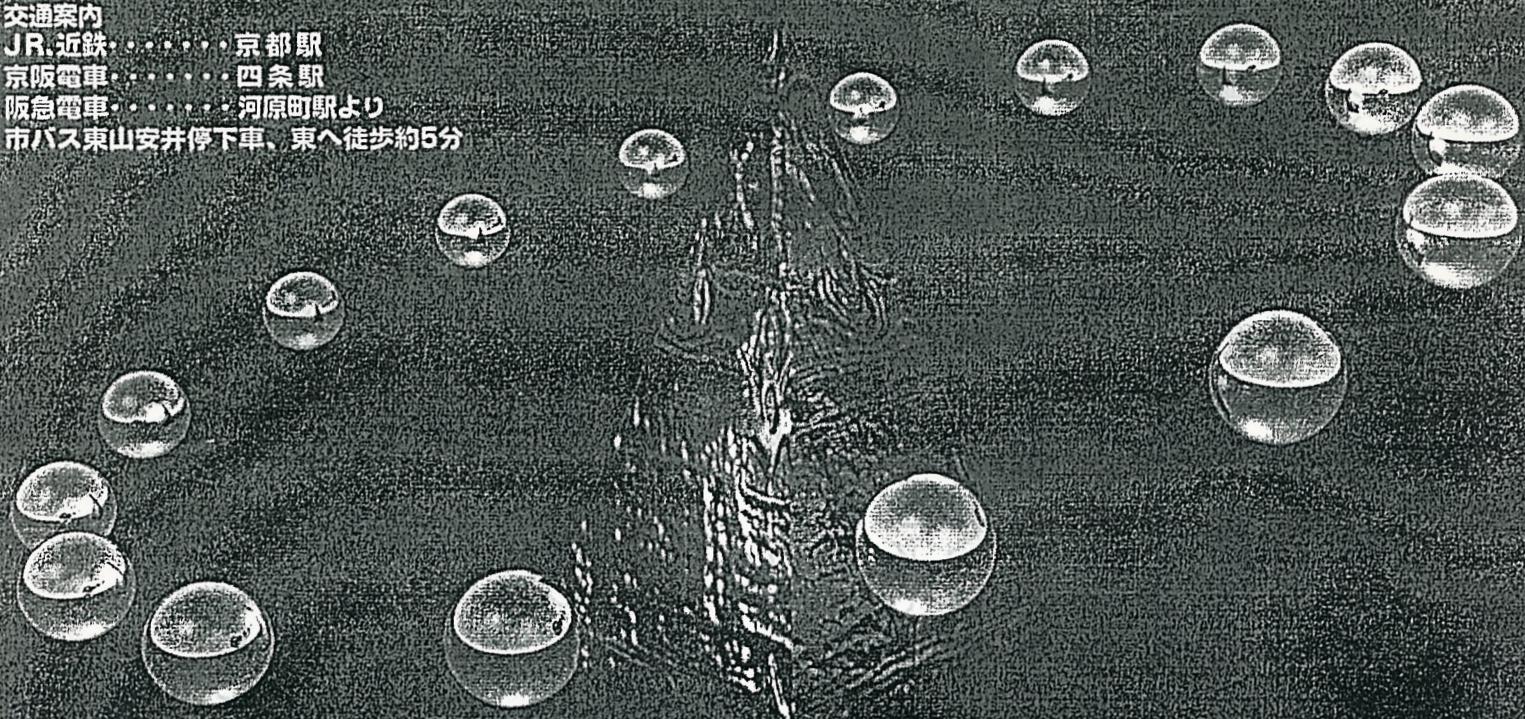
日 時 / 10月23日(日)~11月23日(水)
午後5時~9時

於 / 高台寺
京都市東山区高台寺下河原町526番地
TEL075-561-9966

入山料 / 前売券 900円
(休祭付) 当日券 1000円

交通案内

JR、近鉄……京都駅
京阪電車……四条駅
阪急電車……河原町駅より
市バス東山安井停下車、東へ徒歩約5分



夜空に点々と輝く星々をながめるにつけ、いつも宇宙に思いを馳せるのは
私ばかりではないと思います。

冊子「高台寺」のあとがきに「東山山頂より太陽がのぼり、京都の人々は
このご来光に祈りを込めて、親から子へ、子から孫へと美しい心が育まれ
てまいりました。やがて陽が紅々と西山に没する頃、はや月は東山山頂に
昇り、北政所が観月台より、風光佳絶、玲瓏たる幽溪をめでられて居る姿
が、当時の景色と同時に浮かんで参ります」と記されてあります、まさにこ
の東山山頂に昇る月こそ、いにしえの北政所が見上げられた月そのもので
あります。時間を超越し人々の想像の気持ちを増幅する天空のいとなみで
ある月の満ち欠けによって微妙な風情を楽しまれたことでしょう。

今まさに東山山頂からでてきた「UFO」はとりもなおさず永い年月夜空を
ながめつづけてきた人々の想像のたまものといったら過言でしょうか。
歴史にみがかれてきた庭園を現代技術によりよみがえらせる、これはテク
ノロジーに乏しい、いにしえの人々には予想もつかないことだったでしょう。
現代に実現された「ライトスケープ」は北政所の時代人ならなんと思うで
しょうか、自然の季節折々の陰影の美しさもさることながら、新しい技術に裏
付けされたライトアップを東山山頂から上がった月ならぬ「UFO」からのハ
イテクノロジーな光にたとえ、昔日の人々の驚きにも思いを馳せていただき
たいと思います。